「カテゴリー B」で臨床検体を送付する際の梱包等について

検体輸送時に下記に従って、梱包＜包装→マーキングと宛名→ラベル貼付→書類等作成＞を行えば、航空輸送が可能です。
事前に航空会社貨物カウンターに希望の便への搭載予定を連絡しておいて下さい。

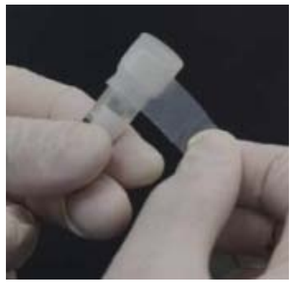
＊輸送費用の感染研着払いを求める場合、上記の要件を満たした上で、ゆうパック（陸送のみ）で発送することが可能ですが、到着までに時間を考慮した保冷対策が必要です。
＊空輸時も、機内もちこみ手荷物としてや、身につけて運ぶことはできません。

基本的三重梱包の手法

一次容器（防水性で密閉性）には外ネジのチューブを使用

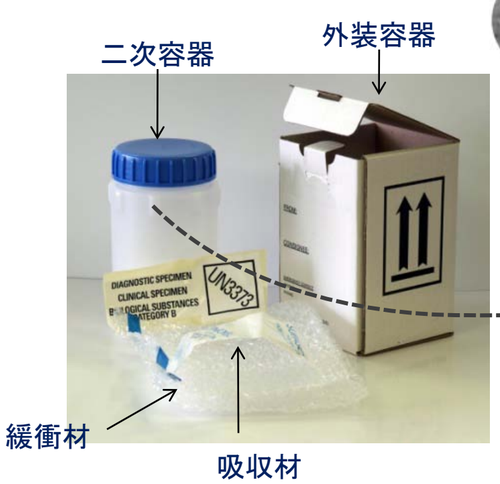
内ネジのチューブはネジ筋に沿ってリークが起こる可能性があるため

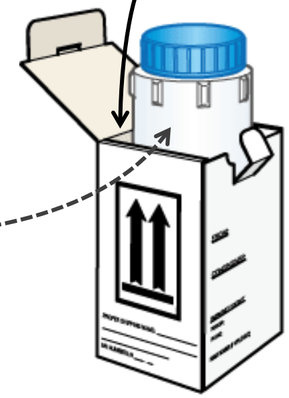
一次容器には、指定の検体用シールを貼付する



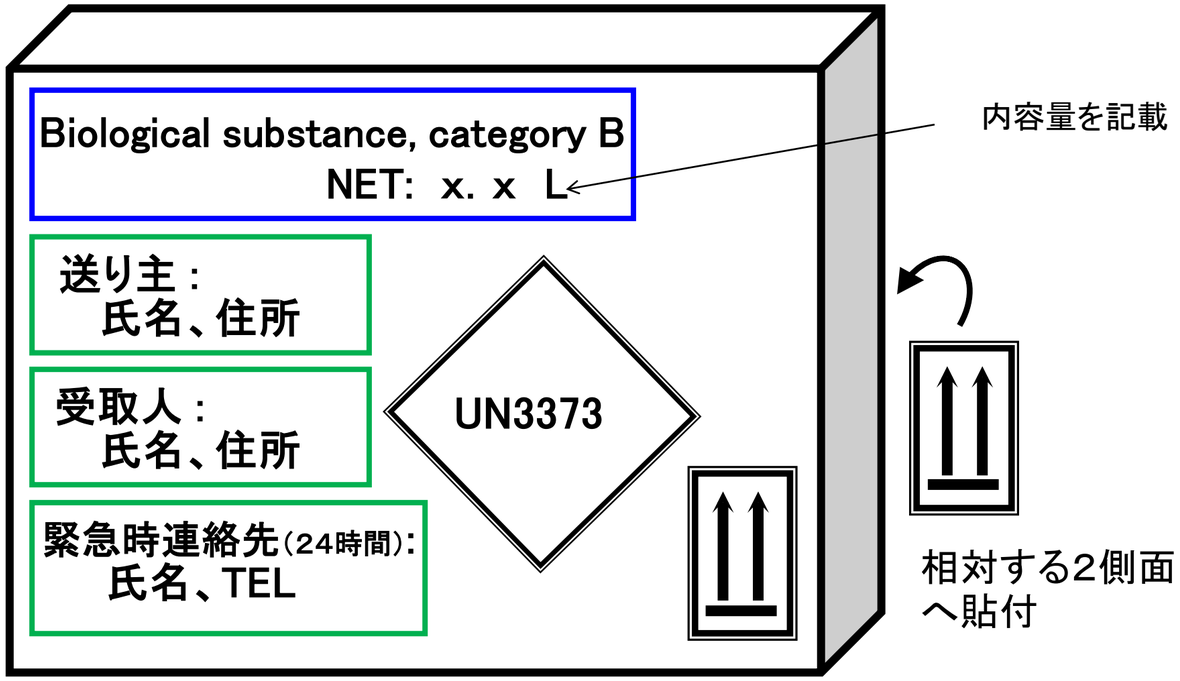
二次容器（一次容器の保護の為の耐久性、防水性、密閉性）と、吸収材、緩衝材、外装容器の例

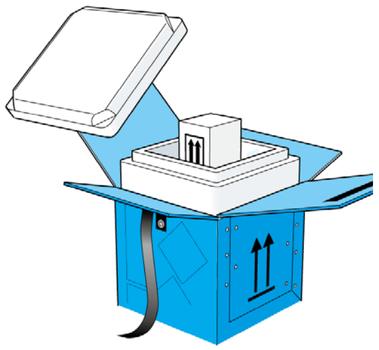
中に、液体全部を吸収するための十分量の吸収材を入れ、緩衝材で包む



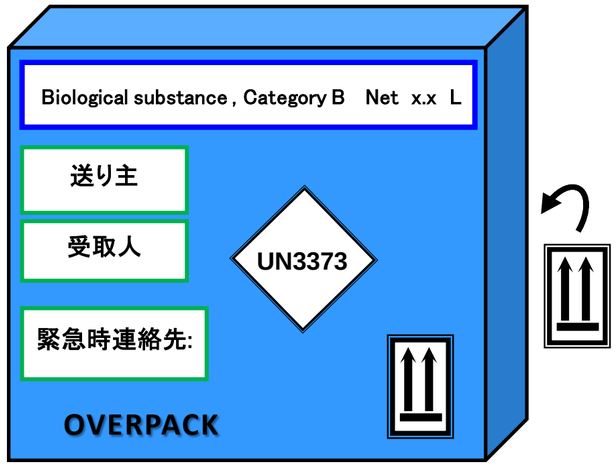


空輸に必要な外装容器への記載事項とラベル





保冷材を外装容器の外に入れる場合には、オーバーパックを利用し、その表面には、外装容器と同じ内容の表示とラベルを貼付し、「OVERPACK」と記載する。



参考： WHOガイダンス日本語版のp21～24ならびにp36～39も熟読ください。（http://www.nih.go.jp/niid/docs/guidance_transport.pdf）